

以身伝しんぶん

冬木記者による展覧会と関連イベントレポート



《考える人》で有名なロダンの《KISS》を模した菊池とにしの写真



こちらはブランクーシの《KISS》を着想減とするもの

身体に向き合う、 NO-MA蔵展示

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAに、蔵があるのをご存知ですか？
庭にある蔵の引き戸を開けると、蔵の中にも作品が展示されています。

1つは、コンスタンティン・ブランクーシの彫刻作品「The Kiss（接吻）」の再現。
もう1つは、「考える人」で有名な彫刻家、オーギュスト・ロダンの彫刻作品「接吻」の再現。

※ここで、「再現」というのは作者の思いとは違うかもしれませんが、あえて「再現」と記させていただきます。
このユニットが生み出した展示作品は、これら著名な彫刻作品を自ら、からだを通して正確に創り込み、血肉を与えたもの。そして、その、からだによる作品を撮影し、再び、瞬間を切り取った不変の写真作品、というかたがを以って制作されました。

暗い雰囲気のある場所をイメージしていませんか？
か？盲ろうとは？目が不自由な上に、耳も不自由な人たちのことを「盲ろう者」と呼んでいます。ヘレン・ケラーが有名ですね。
『オキナワへいこう』は、写真家でもあり、映画監督でもある大西暢夫氏が、大阪の精神病棟の長期入院患者さんたちが沖繩へ行ったいと望む中、各々の主治医の「判断」という壁を乗り越えて実現させていく過程を、時にコミカルに、けれど真摯に向き合っている映像化した作品。大西氏は、18年もの歳月をかけて日本各地の精神病棟の入院患者さんを撮影し続けています。患者さんの人生に重く影を落とされている「長期入院」に問題意識を持って、『もうろうをいきる』は、日本中のいろいろな地域で暮らす盲ろうの方々の日常に迫っています。盲ろう者の方々の映像にすると、これは、映像と音声で表現する映画にとつてもっとも遠い存在である人たちのことを撮影していることにまぎれませんでした。

賞に行つて、自分もこんなのが作れたらいいなあ。こういうの描いてみたい！など、ふと思われたことはありませんか？
その瞬間の皆さまの創作意欲をすぐにも発揮していただけたところが、オープンアトリエENGAWA、が開設されました。

「以、身、伝心 からだから、はじめてみる」のテーマのように、からだ、を使って、世界にひとつだけの作品作りをお楽しみいただけることができましたでしょうか？

オープン・アトリエ ENGAWA

9月22日から、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAにおいて開催されていた展覧会「以、身、伝心 からだから、はじめてみる」の会期中、NO-MAの縁側には、オープンアトリエ ENGAWA、が開設されました。

賞に行つて、自分もこんなのが作れたらいいなあ。こういうの描いてみたい！など、ふと思われたことはありませんか？
その瞬間の皆さまの創作意欲をすぐにも発揮していただけたところが、オープンアトリエENGAWA、が開設されました。

「誰かが15分で有名な人になれる、そんな時代が来るだろう」(改行してください)アンディ・ウォーホルも、そんなふうには言っていますよ！

「以、身、伝心 からだから、はじめてみる」のテーマのように、からだ、を使って、世界にひとつだけの作品作りをお楽しみいただけることができましたでしょうか？



秋のNO-MA映画祭

11月11日、旧伴家住宅において「秋のNO-MA映画祭」が開催されました。

この映画の試みには、全ての人間がバリアを取り払い、自由に映画を楽しめるという夢と希望があると思います。実際に、現在ENGAWAという言語バリアフリーサポートアプリが開発されています。無料でPcやスマートフォンにダウンロードして、作品を選んでおくことで、映画開始とともに音声ガイドが流れてきます。筆者も体験してみました。

「以、身、伝心 からだから、はじめてみる」のテーマのように、からだ、を使って、世界にひとつだけの作品作りをお楽しみいただけることができましたでしょうか？

「以、身、伝心 からだから、はじめてみる」のテーマのように、からだ、を使って、世界にひとつだけの作品作りをお楽しみいただけることができましたでしょうか？



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club